

令和7年度病害虫発生予察情報 発生予報第5号(7月)

令和7年7月17日
発表：福島県病害虫防除所

注意が必要な病害虫

水稲 ■ 斑点米カメムシ類 -①

- 注) ①現状で、注意報レベルの防除を要すると判断された病害虫
 ②予察調査の結果、発生時期が「やや早い」、発生量が「やや多い」と予測された病害虫の中で、発生量や時期などが特に懸念されるもの。
 ③下記2（主な病害虫の発生予報）の項目に入らないが、調査の結果、県全域的に発生が多く、問題になると判断した病害虫

1 主な病害虫の発生予報

(1) 普通作物

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水稲	いもち病 (穂いもち)	全域	平年並	平年並	6月上旬～7月上旬の調査では置苗や本田での葉いもち発生は、見られていない(-)。 BLASTAMによる葉いもち感染好適条件を満たす日は6月下旬以降周期的に出現している(+)	上位葉に病斑がみられる場合は、薬剤防除を実施して穂への感染を防ぐ。 水面施用剤は出穂前、散布剤は穂ばらみ末期と穂揃期に施用する。 薬剤耐性菌の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用はさける。
	紋枯病	全域	平年並	やや多い	昨年の発生はやや多く、天候予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている(+)	窒素肥料の多用をさける。 水面施用剤は出穂前、散布剤は穂ばらみ期～穂揃期に施用する。 気温が高いと上位葉鞘への伸展が進む。特に前年に発生が多かったほ場では注意する。
	斑点米カメムシ類	全域	やや早い	多い	畦畔雑草での発生が多かった(+) 天候予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている(+)	防除時期や対策については、令和7年7月11日付け防除対策、令和7年7月16日付け注意報を参照する。

注) 予報の根拠の中で (+) は多発要因、(-) は少発要因、(±) は平年並要因であることを示す。



病害虫防除所
HPは
←こちらから



病害虫に関する
防除対策のページは
←こちらから